

Cinema Bravo!

TAMA 映画祭超特急号

第 9 回 TAMA NEW WAVE コンペティション グランプリ作品決定!

応募作品 90 作品の中から決定しました!
おめでとうございます!!!!

- ・ グランプリ 『chain』 加治屋彰人監督
- ・ 特別賞 『太陽が嫌い』 松村真吾監督
- ・ クリーク・アンド・リバー社賞
『茜さす部屋』 星崎久美子監督
- ・ ベスト男優賞 赤穂真文 (『ハロー・グッバイ』)
- ・ ベスト女優賞 高橋真由美 (『ハロー・グッバイ』)

第 9 回 TAMA NEW WAVE コンペティションノミネート作品

- ・ 『茜さす部屋』 (監督:星崎久美子)
- ・ 『へばの』 (監督:木村文洋)
- ・ 『ハロー・グッバイ』 (監督:江藤有吾)
- ・ 『chain』 (監督:加治屋彰人)
- ・ 『太陽が嫌い』 (監督:松村真吾)

男優賞女優賞ノミネート

- ・ 崔哲浩 (睦雄) 吉本菜穂子 (麻紀) 『茜さす部屋』
- ・ 吉岡睦雄 (治) 西山真来 (紀美) 『へばの』
- ・ 赤穂真文 (西山) 高橋真由美 (遥) 『ハロー・グッバイ』
- ・ 柴田祐司 (圭吾) 渡辺みなみ (理衣) 『chain』
- ・ 廣末哲万 (正夫) 牛腸和裕美 (広恵) 『太陽が嫌い』

映画祭レポート

11月22日

映画祭初日、やまばとホールでは『明日への遺言』の小泉堯史監督、女優富司純子さんを迎えたトークショーが行われました。司会はやまばとホールではお馴染みの北川れい子氏です。

黒澤組出身の小泉監督からは、黒澤組で学んだことや自身の映画制作に関するポリシー、『明日への遺言』の制作秘話などを、また、富司さんからは主演の藤田まことさんとの昔からのご縁や今作での演技について語っていただきました。

質疑応答の時間もあり、普段聞けないような深い質問も飛ぶような貴重な時間となりました。



第4会場ベルブホールでは、「“アウトサイダー” 社会の周辺から問う私たちの現在」と特別上映『靖国 YASUKUNI』の2部構成で行われました。

「“アウトサイダー” 社会の周辺から問う私たちの現在」では『眠り姫』(七里圭監督)と『おそいひと』(柴田剛監督)の2作品の上映が行われました。上映後に両監督を招いてのトークを行い、それぞれの映画に対する思いが語られました。



“アウトサイダー”トーク



『靖国 YASUKUNI』トーク

第2部の特別上映『靖国 YASUKUNI』では、やはり今年大変な話題となった作品ということで、多くのお客様にご来場頂きました。

上映後に、配給のアルゴピクチャーズ細谷氏と同作品で助監督を担当した中村高寛氏(『ヨコハマメリー』監督)をゲストに招いてのトークが行われました。

映画祭レポート

11月23日

ベルブホールでは、特別上映『靖国 YASUKUNI』と「NO MUSIC NO MOVIE」と題した『タカダワタル的ゼロ』『たゆたう』の2作品上映による2部構成で行われました。

第2部の「NO MUSIC NO MOVIE」では2作品の上映後、高田渡さんの息子さんでペダル・スティール奏者の高田漣さんとクラムボンのミトさんによるトークショーが行われました。司会はモナレコーズの行達也さんをお願いいたしました。

お互いに上映作品をみていない(!?)という激白もまじえつつ音楽や映画だけでなく、さまざまな話題にあふれたトークショーとなりました。

途中から客席にいらっしゃった『たゆたう』の高木聡監督にも加わって頂きドキュメンタリー映画についての興味深いお話を聞くことができました。

質疑応答も大変な盛り上がりを見せていましたね。会場のお客様の笑顔をたくさんみられたのも印象的でした。



パルテノン小ホールでは、「ふつう」の大人達のゆるい映画を集めた「愛すべき普通の人々」題して『純喫茶磯辺』『転々』『全然大丈夫』の3本をお送りしました。

『全然大丈夫』の上映後には、藤田容介監督、出演の きたろう 氏をむかえてのトークショーを行いました。



きたろう氏の軽妙な話術が藤田監督の引き出しを開けてながら進んで行ったトークは、『全然大丈夫』の撮影時の様子、映画制作特にキャスティングに妥協しないことの大切さ、主演の荒川良々さんの快演ぶり、出演の木村佳乃さんの崩し方、俳優 きたろう氏の存在感や「さば」での役所(なぜ、ばあちゃん役に?)、ビデオ作品「さば」のお話等々、豊富な内容であっという間に時間が過ぎて行きました。

トーク後の質疑応答では、「全然大丈夫」に登場するキャラクタの設定されていなかった、その後なども聞くことができ、貴重な機会となったのは間違いありません。

映画祭レポート

11月24日

ヴィータホールでは第9回 TAMA NEW WAVE コンペティションが行われました(結果は1面に記載)。



グランプリ受賞『chain』- 加治屋彰人監督



受賞者とスタッフとの集合写真

会場にご来場いただいたお客様、特別審査委員の皆様、一般審査員の皆様、そして、第9回 TAMA NEW WAVE にご応募頂きました皆様、本当にありがとうございました！！

ベルブホールでは、大人への長い長い階段を駆けぬける"童貞"君を描いた2本、『童貞。をプロデュース』、『グミ・チョコレート・パイン』を上映しました。

上映後は、『童貞。をプロデュース』の松江哲明監督、『グミ・チョコレート・パイン』のテーマ曲を担当された電気グルーヴのピエール瀧さん、司会に映画ライターの森直人さんを迎え、トークショーを開催しました。

トークの話題はもちろん"童貞とは?"という男子永遠のテーマ。ピエール瀧さんからは「童貞には二種類いる」といった"童貞論"(それもマージャンのあがり方に例えて!)や松江監督からは『童貞。をプロデュース』の撮影秘話やドキュメンタリー映画に関する考え方などを語っていただきました。

童貞しか持ちえないため込んだ純粹エネルギーの矛先や、童貞と非童貞での違い、童貞卒業年齢などのぶっちゃけトークに会場の男子はもちろん、女性のお客様を巻き込んで大盛り上がりとなりました!

また、会場からの質問では「童貞と処女の違いは?」という質問に答える場面もあり、まさに童貞学講座と呼べるほど充実した1時間になりました。

発行: TAMA 映画フォーラム実行委員会

〒206-0025 東京都多摩市永山1-5 (ベルブ永山) 多摩市立永山公民館内

TAMA 映画フォーラム実行委員会

TEL080-5450-7204(直通)、042-337-6661、FAX 042-337-6003

<http://www.tamaeiga.org/> <mailto:info@tamaeiga.org>

